

東北支援



私は臨床獣医師ではなく、一般企業の勤務獣医師です。私の勤務先では、今回、震災支援のためのボランティア休暇が新たに5日間制定されたため、有給休暇、さらには通常の週末を併せて、それ

らの日々を使って被災地での活動をしています。4月から7月上旬迄の約30日間を石巻のシェルターで活動し、7月中旬に実施された福島警戒区域内動物救援獣医師チーム(VAFFA)の活動への参

福島県警戒区域内動物救援獣医師チーム
(VAFFA311)
東海林綾

福島県警戒区域内動物救援獣医師チーム

VAFFA311 活動報告

<http://vaffa311.com>

神奈川県大和市・ひらの動物病院院長 平野由夫

3月11日の震災後、福島災害現地対策本部で主導されてきた警戒区域内放浪動物保護活動は、9月より福島県を主体とする行政一斉捕獲活動に引き継がれました。これに伴い、福島県警戒区域内動物救援獣医師チームVAFFA311が当初に掲げた警戒区域内での犬猫の拡大捕獲という初期目的は達成されたものと考えます。この事から、VAFFA311では福島県獣医師会並びに関連行政との連携を図りながら、現在、動物保護活動の後方支援、シェルター支援等について継続しています。また将来、再び起こる可能性を否定できない有事に備えた動物救援体制を維持すると共に、今回の活動で得られた情報・経験を活かして、全国規模での災害時相互協力ネットワークの構築を推進しています。引き続き、皆さまのご理解・ご協力を賜れますよう、心よりお願い申し上げます。

今回、VAFFA311の動物救援活動の一環としての動物保護シェルター支援において中心的な役割を果たしている東海林 綾獣医師の活動手記をここに紹介します。

考えよう、 これからの



加をきっかけに、その後、現在まで、合計13日間を福島県の動物保護シェルターでお手伝いをしています。

石巻動物救護センターでは、シェルター正式稼働前日から携わったため、動物管理部門の責任を担わせて頂くことが多くありました。初期の頃は、朝礼での注意事項伝達、ボランティアの方々への作業説明及び人員配置、面会にいられた方や行方不明のペットを探されている方からの情報整理に始まり、一時保護依頼への対応、支援

物資の受取りや物資を必要とされる被災者の方への対応、必要書類の作成及び改訂、さらには動物たちの世話まで、多くの業務に携わってききました。ゴールデンウィークを過ぎた頃からは、業

考えよう、これからの東北支援

務を細分化して分担できるようになりましたが、すべてを少数人数で処理していた活動当初の尋常でない忙しさを、今、振り返ると、よく乗り越えたものだと思います。

石巻のシェルターは、当初、ボランティア主体で運営されていましたが、7月からは被災された地元獣医師会所属の先生方も運営に関わられ、充実した保護活動が行われました。現在は閉センターへ向けての動きに変わりつつあるようです。ボランティア主体の頃は、全体の業務を総務、後方、事務局、動物管理、獣医療の5部門に分け、朝のミーティングで責任者からの申し送り事項等を確認した後、シェルター班と事務局に分かれ、注意事項と人員配置を行い、1日の終わりに各部門の責任者たちが、再度、集合しミーティングをしました。ミーティングは深夜にも及ぶ事もあり、その日の必要情報及び問題点の共有、改善案の検討、翌日への申し送り等が議題となりました。金曜の夜に高

速バスに乗り、日曜の夜のミーティング後に高速バスや相乗りの車で運転を交代しながら翌朝に帰宅するというハードな生活を送りました。交通が回復してからは新幹線利用や、連絡に必要な諸経費等の負担もかなりありましたが、それでも頑張ることができたのは、日々、動物たちの為に頑張ってくれているボランティア仲間の情熱にうたれてという部分がおおいにあったと思います。

その後、7月16日～17日のVAFFAによる警戒区域内動物救援活動において、福島シェルターの人員不足を目の当たりにし、何かお手伝いできる事はないか、石巻での私の経験を生かす事はできないかと思い、福島での活動を始めました。石巻とは違い、福島のシェルターでは一人のボランティアとして黙々と作業をするだけですが、何度も通っているとやはり、他のボランティアの皆さんとの間にも信頼関係が生まれ、お世話のクオリティーやスピードも上がります。それぞれの想いを抱いて集まったボランティアの間で、お互いへ

の信頼と調和が生まれ、活動場所での志をつにする事こそが、結果として保護動物たちのための心温かいお世話に繋がるのだと感じています。

平日は通常勤務がありますし、休暇を利用して被災地での活動を続けることは、身体的な疲労がないわけではありません。それでも週末になると被災地へ赴いてしまうのは、やはり一緒に頑張っている仲間たちがいて、私たちの活動を必要としている動物たちがいるからこそだと思います。私一人では何もできませんが、互いに励ましあい、ともに頑張ってくれる仲間、被災地への往復を助けてくれる支援者・活動家の方々ははじめとして、多くの皆様に支えて頂き、今の、私の活動があります。ご協力下さっている皆様方に、心から感謝の意をお伝えさせて頂くとともに、この活動を『思い出』として語る事ができる日まで、仲間たちと共に、多くの動物の健康やかで幸せな日々につなぐことができるよう、私はこの活動を続けていきたいと考えています。

動物救護センターとの協同で、 今こそ『犬のチカラ』で深めよう『人のキズナ』

【東北支援プロジェクトについて】

ドッグビヘイアリスト 下村拓也

イギリスの動物保護施設でドッグビヘイアリストとして活躍してきた下村氏。保護された動物たちが抱える不安をどうすれば取り除くことができるのか、プロの視線で考えてこいちゃいます。その結果、犬たちの『心のケア』を行うプロジェクトをスタートすることになりました。

私が想像していた以上に、津波被害のあった石巻エリアは回復に向かっていくように見えました。ところが、実際の現地での人々の状況や犬達を取り囲んでいる環境は未だ完全とはいえず、とくに今後、多くの被災した犬達が救護センターから仮設住宅に帰っていくという現状を知り「これは何か、自分達に出来る事があるのではないか？」という使命感が生まれたのです。

数々のボランティア機関やNPOのご協力により、被災地では犬達を救うための物資や資金が集まっているようです。しかし多くの犬達が救われた現実の中で今、現地に最も必要とされている事は、「被災した犬たちと被災した人たちの絆をつなぐ事」だということに見えました。

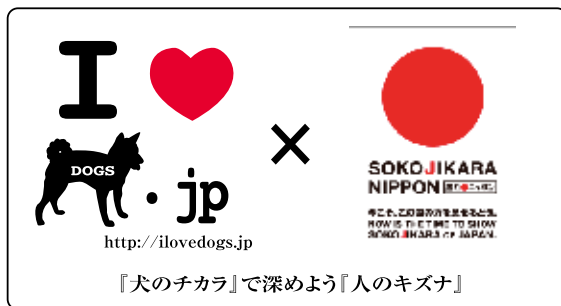
そこで私たちは、現地の『動物救護』や『被災者の心のケア』を目的としている団体(ボランティア及びNPO)の各種プロジェクト

【本プロジェクトの具体的な活動内容】

- ・ 救護センターなどから仮設住宅へ帰っていく愛犬の「ケア方法」の伝達
- ・ コミュニティの皆様にかかれる様な犬になるためのドッグトレーニング企画
- ・ 集団での犬の飼い方教室や、ドッグフード・グッズなどの販売企画、その他イベント企画とその実行
- ・ 子供達に向けた新しい「ペット犬」の在り方（より人々の生活に近い形での共生）に対する教育プログラム実施

一つ一つに被災地支援のこれからの大きな問題である「心のケア」という部分への目的があります。

コミュニティという新しい枠へ入っていく被災者とそのペットたち。その生活に対して、今後予想されるニーズを「支援」することが我々の使命だと、考えています。



社団法人アイラブドッグス（登録申請準備中）
本支援に関するより詳細な情報は<http://ilovedogs.jp>のホームページ上に公開しています。



石巻動物救護センター（写真撮影：ふがふがレスキュー）

と協議して一致団結した活動を行う事が出来るのではないかと考えたのです。

今回のプロジェクトは、被災した犬それから被災した人々のコミュニティを取り戻す目的で設立されました。

被災したことで、飼い主を失ったペットたち。

被災したことで、ペットを失った飼い主たち。

その両者に対し、周りの人々で

協力しながら新たなコミュニティを形成するお手伝いをしていきます。

すでに、各種プロジェクトが個々で素晴らしい活動を行っており、力を合わせることでより大きな成果が期待できるでしょう。

現地の『犬のチカラ』を信じて『人のキズナ』を深める事が出来る。そう気付いたのです。犬という動物が人々の間に介

考えよう、これからの東北支援

在することによって得られる新たなコミュニケーション、コミュニティを創り出していきます。これは人々の心の癒しになるだけでなく、コミュニティリーダーとしての本来のペット犬の魅力を見現化する時が来りました。

皆様の温かい支援でもって、東北に住む人々とそのペットたちへ、生きる元気と活力を。